



一緒に「イクボス宣言」しませんか？

東海村イクボス同盟参加事業所を募集します！

村では、部下の育児・介護や、ワーク・ライフ・バランス等に配慮・理解のある上司(いわゆる「イクボス」)の輪を広げるため、「東海村イクボス同盟」を結成します。これに伴い同盟に参加する企業・団体等を募集します。また、次の日程で「イクボスセミナー」と「共同イクボス宣言」を行いますので、ぜひご応募ください。

【日時】7月10日(月) 午後1時30分～3時30分

【場所】東海村役場

【対象】村内に事業所等を有し、イクボスの趣旨に賛同する企業・団体等

【内容】▽講演 ▼演題…「多様化時代の理想の上司は

イクボス」▽講師…安藤哲也さん(NPO法人ファザリング・ジャパン代表理事)▽「東海村イクボス同盟」結成・共同イクボス宣言

【その他】今後、加盟団体等を対象とした各種セミナーや異業種交流会等を開催する予定です。

【申し込み・問い合わせ】村公式ホームページから所定の申請書をダウンロードし必要事項を記入の上、持参・ファックス・メールのいずれかで、役場行政棟3階広報広聴課秘書・女性活躍推進担当(☎282-1711 内線1301 FAX287-0845 ①kouhoukoutyou@vill.tokai.ibaraki.jp)へ申し込みください。

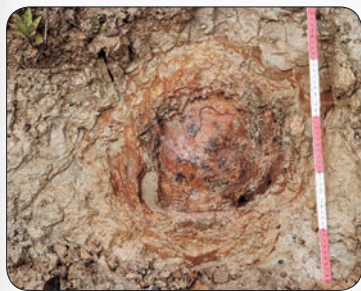
ふるさと歴訪



自然を探して

謎の“タマゴ石”

東海病院の西側に位置する道路工事現場とその周辺には、およそ15万年前から1万年前後前までに堆積した新生代第四紀の地層が分布しています。その一部には、12万年前ごろの沼か湖で堆積した、ヒシの実化石を含む粘土層が見られます。新鮮な状態では青灰色、風化した状態では明褐色を示す均質で軟らかいこの粘土層の中に、「巨大な卵の化石」のような球体が数個確認できました。厚さ5ミリメートル前後の硬い板状の粘土が同心円状に幾重にも重なり、風化に伴って板状の粘土がタマネギの皮をむくように剥がれる特徴を示していました。



新鮮な状態の“タマゴ石”



風化状態の“タマゴ石”

現在、球体の名称はありませんが、その形状から「タマゴ石」とでも名付けたくなるほどです。この球体を始め高師小僧、鬼板、壺石など、褐鉄鉱によって形成されたさまざまな物体が同じ地域から産出することは、大変珍しい現象であり、当時の環境を解析する上で重要な場所といえます。

が明らかとなりました。この分析結果をもとに謎の球体を考察すると、球体は粘土層中の水に含まれる鉄イオンが「鉄バクテリア」などの活動によって針鉄鉱となり、沈殿と固結を繰り返して形成されたと推測されます。つまり、球体の正体は針鉄鉱の集合体ということです。ちなみに、針鉄鉱は「ゲーテ鉱」とも呼ばれ、その名はドイツの詩人ゲーテに由来します。また、周辺から産出する「高師小僧」、「鬼板」、「壺石」も同様の過程を経て形成されたと考えられます。

東海村自然調査会調査員

菊池 芳文